

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000054		
法人名	株式会社 メイト		
事業所名	ホームとよまね2号館		
所在地	〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第2地割111-3		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本位の生活実現を目標に、自分らしく生活できるようスタッフ一同サポートしています。買い物や、散歩、入浴等、利用者様のペースに合わせ支援することをモットーとしております。令和5年5月にコロナ感染症が、5類感染症に移行された事により、感染対策にも気をつけながら、地域との交流を進めています。こども園、小学校、中学校の交流、カラオケ同好会の来訪を行い、地域の方々との交流を行いました。又2か月に一度、ボランティアで歌と踊りを披露して頂いています。職員は、行事等を積極的に企画し、敬老会、運動会、ドライブ等の外出を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある『安心と尊厳のある』自立生活を支援」することを常に意識し、利用者一人一人の生活歴や好きなこと、日々の会話や行動などから、それぞれの思いや意向をくみ取り、それを職員間で共有して利用者が自分らしく生活できるようサポートに努めている。また、町との連携を密にして情報共有を図り、様々な協力を受けているほか、特に地域との交流に力を入れ、カラオケ同好会の来訪、子ども園や中学校との交流、地域のお祭りへの参加や子ども神楽も来訪している。また、地域の農家に向いての野菜等の収穫、避難訓練や除雪に対する近隣住民の協力など、活発な交流が日常的に行われ、利用者にとって地域との交流が日々の生活の中で楽しみとなっている。その他、敬老会、お花見、サクランボやブルーベリー狩りなどの行事等も活発に行われ、感染対策に十分配慮しながら、花見、紅葉狩りなどの季節のドライブや、道の駅での外食やソフトクリームなど、利用者の希望に沿って季節を楽しみ食も楽しむ機会を設けるなど、利用者本位の介護に努めている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の目に見える所に理念を掲示している。又、毎月の職員会議の時に唱和し、共有している。理念に関する研修会を実施し理解を深めている。	「ホームとよまね」(以下「1号館」)と共通の理念を掲げ、その上で職員が話し合って日々のケアの具体的な目標を定め職員意識の共有を図っている。また、年1回、理念に関する研修会を開催し、理念に盛り込まれている尊厳、自立などの言葉が意味するものについて理解を深めるとともに、それを利用者のケアにどう活かし実践につなげるかについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R5年5月よりカラオケ同好会の来訪、中学校、こども園との交流、ボランティアを再開しました。	地域のカラオケ同好会との歌と食事の交流、中学校の福祉学習での交流のほか、こども園の運動会見学や餅つき体験とともに、利用者の手作り雑巾を園に届けるなど、多世代との交流が活発に行われている。地域のお祭りでは子どもたちが来訪し「よさこいソーラン」を披露するほか、近所の農家で食用菊の摘み取りや柿の収穫に出かけ、冬場には除雪の手伝いをしていただくなど、利用者も地域の一員として、日々の生活の中で普段着の交流が行われている。	地域住民との関係性を強め、様々な支援を受けながら事業所が運営される姿は、他に誇れるものであり、今後とも地域住民とともに歩み続ける事業所として、交流を深めていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト事業に積極的に参加し、認知症サポーター養成研修に、スタッフの派遣も行っている。地域の中で、認知症を対象とした施設として知ってもらうよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な機関の代表が推進委員として参加され、頂いた意見の中で、すぐにできる事から取り組みサービス向上に努めている。	地域包括支援センター、こども園、自治会、地域住民、他法人のグループホーム、民生児童委員そして利用者家族など、多様な立場の方々が出席され、それぞれの視点から運営状況について話し合われている。委員との協力関係が構築されており、サービス向上のほか様々なサポートにもつながる会議運営がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議などで情報交換を行いながら、協力関係の構築に努めている。	町とは運営推進会議や地域ケア会議の場などで、情報の提供、共有に努めている。災害に備えた警報が発せられる前に町から電話連絡があるなど、非常時の連携も図られている。介護相談員や傾聴ボランティアが来訪して利用者の話を聞いてもらうなど、様々な面での協力関係が築かれている。	

令和 5 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険の基準において禁止の対象となる具体的な行為を研修し、身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束権利擁護委員会を設置し、拘束のないケアについて強化し実践している。廃止宣言をしており、拘束のないケアを実践している。	1号館、2号館合同で、各管理者と身体拘束廃止の外部研修を受けた職員が委員となり3か月毎に委員会を開催するとともに、職員研修も主催している。事業所として身体拘束の廃止宣言を行い、指針も策定するなど、身体拘束をしないケアに職員が一丸となって取り組んでいる。夜間の転倒防止のため離床センサーを3名が利用し、防犯のため夜間のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法で定義されている5つの虐待に関して確認し、防止に努めている。身体拘束権利擁護委員会において、声掛けの言葉にも注意をするよう研修し、実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内職員研修を実施し、全員で学ぶ機会を設けている。又、生活支援員の毎月の訪問を通じて、日常生活自立支援事業を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉で、説明を行い、契約内容を確認していただいている。契約時に予想される生活上の事や、将来の退所についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に管理者との面談のほか、利用者の担当職員を設けることにより、気軽にコミュニケーションがとれるよう心掛けている。運営推進会議への出席もお願いしている。	利用者全員が言葉で意思表示できるが、要望は食事や外出に関するものがほとんどである。家族には利用者の生活状況や体調、通院状況等を毎月お知らせしており、面会や電話連絡があった際に意見などを伺っている。しかし、運営に関する意見等はほとんどない。何か要望があれば、できる限り実現するよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議とカンファレンスで発言の機会を設けることと、毎日の申し送りの時間をしっかりとることにより、より多く職員の意見を聞きだすよう努めている。	職員会議やカンファレンスの中で、利用者の日々の変化やケアの改善等について意見を出し合い話し合っているほか、日々の業務の中で職員が相互に意見を言い合える関係性ができている。それがケアプランの見直しやケアサービスの向上につながっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給与・待遇ができるよう職場環境・条件を整備し、実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修とともに、外部研修の機会を均等に設けるように努めている。資格試験時の勤務優遇など、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町のグループホームの運営推進会議には、お互いに参加し、情報交換をしている。グループホーム協会の定例会、研修会にも参加し、情報交換をしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、ご本人の思いを傾聴し、思いを受け入れ、行動する関係作りを努めている。安心ある生活が提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、ご家族の思いの聞き取りを行っている。その後の面会時にも不安や要望を聞き、担当職員を設けるなどし、円滑にコミュニケーションを図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを傾聴し、必要としている支援を見極め、その都度柔軟に対応できるよう努めている。特に生活歴や趣味・嗜好・生活習慣等を伺い、提案に努めている。		

令和 5 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般を利用者と一緒に行い、様々な生活の場面と一緒に過ごせるようにしています。調理や掃除、縫物など個々の能力に合わせて家事などの手伝いを促し、利用者のペースに職員が合わせて、安心して生活していただけるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り来所していただき、面談していただいている。職員からも様子を伝え、支援経過を送付し、日々の暮らしを知って頂いている。行事等の連絡を行い一緒に参加し共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら家への訪問や墓参り、近所にいた方の訪問など関係がとぎれないよう、支援に努めている。	入居時や日々の会話の中で、家族や本人から関りがあった人や場所を把握し、支援に活かしている。墓参のため自宅に外泊する人が1名いるほか、岩泉の自宅に戻ってサクランボ狩りをしてく人もいるなど、家族等との関係が途切れないよう支援に努めている。元同僚の面会があったり、通院時に知人と会ったり、実家の近くをドライブで巡ったりと、馴染みの人と場所との関係の継続性を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループ作りを行い、良い関係が保たれる利用者同士を近くの席に配置するなど、関わり合えるよう努めている。又、必要に応じて職員が会話の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時、退所後もご家族が相談できるよう努めている。情報提供や他施設への連絡調整も必要に応じて行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のお話しをする中で希望や意向を聞き出し、日誌に記入し情報共有に努めている。実現できることや、実現に向けた支援に努めている。	利用者全員が言葉で意思表示できることから、日々の会話の中から思いや意向等を汲み取るようにしている。山田弁で話しかけたり、入浴時の1対1になるときを活用したりしている。得られた情報は日誌に記載し職員会議でも話し合うなど、職員間で共有しながら、思いの実現に向けた支援に努めている。	
----	-----	--	---	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用いて少しずつ、ご本人や家族、面会に来られる方々から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌等の記録をもとに、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議とカンファレンスで意見を出し合い、ご家族の訪問時に希望や意向を聞き取り、計画に反映しています。又、日々の申し送りや、毎日の実施モニタリングで現状把握に努め新たなニーズ発見に努めている。	当初の暫定版は、居室担当の意見などを聴きながら、1~3か月で見直している。その後、毎日、日勤者がケアプランのチェック項目を確認し、それを計画担当者が1か月ごとに取りまとめてモニタリングを実施している。ケアプランは、カンファレンスでの職員の意見や本人・家族の意向も盛り込んで作成している。短期は6か月、長期は1年を基本に現状に即したプランとするよう見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録、毎日の業務日誌を通し、職員間の情報共有を図っている。ホワイトボードも利用し情報共有し、良いアイデアはすぐに実践できるよう、常に話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれた場合は、柔軟に対応できるよう、職員の配置や業務の見直しを行い、利用者の実情に合わせた支援が実施できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の外出の意向に出来る限り応じ、積極的に地域行事参加などに努め、地域の一員として生活を楽しめるよう支援している。近隣の保育園、幼稚園、学校との交流や、地域のカラオケ愛好会が毎月訪問している。		

令和 5 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又はご家族の同意の元に主治医の所へ通院し、必要時スタッフが同行するなど主治医との関係を密に保つように努めている。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医に通院している。通院は基本家族対応としているが、コロナ禍もあり、職員が同行してかかりつけ医との関係性の継続を支援している。受診結果は家族に電話連絡するほか、毎月のお知らせでも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師はいないが、各利用者のかかりつけ医院の看護師や、協力医療機関と連携を図り、適切な助言や受診が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、医療相談室と連携を図りながら、情報交換や相談をし、円滑に行えるよう努めている。地域ケア会議出席により、普段から関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内で出来る事を関係医療機関、職員で話し合い、ご家族にも伝えている。緊急時の対応をご家族と確認し合い、終末期に向けてどこまでできるかをキーワードに、対応できる範囲で実施している。	現状では看取りまでは行っていない。入居時に本人と家族に対し、重度化した場合に事業所ですることとできないことについて説明し、了承を得ている。基本は医療的ケアが必要になった場合は医療機関への転院となるが、できるだけ住み慣れた場所で安心して過ごせるよう、主治医や地域包括支援センターとの連携を密にしながら、事業所が対応できる範囲までケアを継続するよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や、初期対応の訓練、マニュアルの確認等を行い定期的に研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応の避難誘導訓練を定期的を実施し、近隣の住民へ避難誘導を依頼し、連携に努めている。水害についての細やかなマニュアルを作成し、速やかに避難できるよう努めている。	ハザードマップ上では、洪水浸水想定地域に指定されており、日中と夜間想定火災避難訓練と水害避難訓練で毎年3回実施している。これまで、台風や大雨で6回ほど避難を経験しており、それに基づく火災及び水害時の避難マニュアルも策定している。また、避難時は近隣住民の協力をお願いしており、訓練にも参加してもらっている。なお、一番怖いのは放火であり、夜勤者は勤務に就く前に必ず事業所周辺を回って、異常等がないか確認をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや行動を受け止め、否定することなく、寄り添って見守りするよう努めている。本人の誇りに持っている事を引き出し、支援するように努めている。	利用者の生活歴については、職員間で情報を共有し、利用者一人一人が誇りに思っていることを大事にし、日々の生活の中でそれを生かせる機会を設けるなど、利用者の思いや誇りを尊重したケアを行っている。また、身体拘束権利擁護委員会が中心となり、具体的な事例をもとにスピーチロックの防止に向けた研修を行い、事業所全体で改善に向けた取り組みを進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、思いを受け入れる姿勢を利用者に向け、利用者の希望や意見を制限しないような雰囲気作りに努めている。本人の思いや希望を実現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など、大まかなスケジュールはあるが、入浴は希望時間に合わせている。買い物の希望にも、随時対応している。利用者のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時はスタッフが一緒に服を選び、楽しく外出出来るようし支援している。美容室はホームへ訪問してもらい、3か月に1回程度のサイクルでカットしてもらっている。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、季節感のある食事を提供している。調理、食事の盛り付けや、茶碗拭き、茶碗洗いなど手伝ってもらっている。お団子やホットケーキ作りなども一緒にしている。	三食とも職員が献立を考えて調理している。利用者も下ごしらえや盛り付けなどを職員と一緒に、食後の片付けを手伝うなど、日々の日課として行うことで食事の時間を楽しんでいる。また、秋には栗ひろいや干し柿づくり、栗ごはんなど季節の食べ物を楽しんでいるほか、地域の名物の米団子やすっとぎづくり、ドライブで遠出をしたときには必ずソフトクリームを食べるなど、食を楽しむことができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別に記録しチェックし、栄養状態、水分量が十分に摂取できるよう把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所へ誘導し、歯磨きうがいをしている。夕食後は入れ歯を預かり薬剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録票をもとに、排泄誘導の間隔を把握し定期的に促しや交換を実施している。認知により排便のふき取り介助が必要な方にも、自尊心を傷つけないよう注意しながら実施している。見守り確認し、必要に応じ、尿取りパット交換を促している。	車椅子利用者が2名、手を引く介助が必要な方が2名いるが、現状では利用者全員がトイレでの自立排泄がほぼできている。夜間はポータブルトイレ利用者が3人おり、介助が必要な方もいるが、排泄チェック表で習慣やパターンを把握して見守りや確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表で摂水量を把握し、少ない利用者には促しを実施している。毎朝の体操を実施し運動不足の解消、毎昼ヨーグルトを摂取している。個別に歩行運動等、便秘解消に取り組んでいる。随時処方された下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定表もとづき声掛けするが、本人の希望で時間や日程をずらし、利用者のペースで入浴できるように支援している。入浴剤の使用や季節にあった(ゆず湯、菖蒲湯等)で入浴を楽しんで頂いている。	原則、週2回の入浴としているが、入浴時間は決めておらず、その日の気分で入りたくないときは翌日にずらすなど、出来る限り本人のペースに沿うように対応している。職員と1対1のおしゃべりタイムとなっており、様々な話題が飛び交っている。入浴剤の利用のほか、菖蒲湯や柚子湯など、季節を感じられる楽しい入浴となるよう取り組んでいる。	

令和 5 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリを持たせるために、大まかな施設の生活時間は定めてあるが、起床時間や朝食の時間は個々の生活習慣に合わせ柔軟に対応できるよう、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容を添付し、服用時にスタッフが手渡しで服薬確認を努めている。処方が変わった場合は、日誌にて周知し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から役割を見つけ出し実践している。個々の得意なことや、心身の状況によって差はあるものの、利用者それぞれの役割が決まってきた。役割をこなすことで充実感を得ている。ボランティアによる歌や踊り、園児訪問を楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物や、ドライブの他に、季節の行事として外食ドライブを実施している。地域で行われる行事への参加も行い、施設周辺の散歩も自由に行えるよう、支援している。	日頃から健康管理を兼ねて事業所の周囲を散歩したり、庭の畑で作業をしているほか、地域のお祭りや山田祭りに出向いたり、誕生日のお祝いに岩泉の実家を訪れサクランボ狩りを楽しむなど、様々に外出の機会を設けている。春の船越家族旅行村での花見や川井のやまびこ館で紅葉を眺めたりと、季節ごとの遠出ドライブのほか、山田町出身者が運営している紫波町のバラ園に出かけるなど、出向いた先での外食を含め、メリハリをつけて生活を楽しめるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて必要に応じて支援して。買い物支援を行い、ご本人、ご家族の希望に応じてお預かりしているお金を渡し、自由に使えるなどの支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が、電話を希望するときは、ご家族了承のうえで電話の取次ぎをしている。又、荷物等が送られたときは、ご家族へ電話連絡をするようにしている。		

令和 5 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を利用し、施設に自然光が入るよう工夫している。又、季節を感じられるような掲示物や、季節の花を置くなどし、落ち着いた雰囲気作りに努めている。冬には加湿器を利用し、風邪の予防ができるよう努めている。	利用者は一日のほとんどを南向きで一日中陽が入るホールで過ごしており、晴れた日はテラスに出てゆったりと日向ぼっこを楽しんでいる。ホールには職員が作成した季節の装飾や利用者で作ったその年の干支が飾られているほか、交流のあるこども園や小学校などから送られてきた写真も飾られるなど、居心地よく過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席順は気のあった利用者同士を近くに配置している。共有スペースでは選んで座れる空間を設けると共に、利用者が自由にくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使っていた、馴染みの物を持って来てもらい、自分の部屋と認識でき、安心できる居室となるよう、心掛けている。行事の写真や作った工作なども掲示している。	居室にはベッド、箆笥、ハンガーラック、パネルヒーターが備え付けられ、テレビや家族の写真、思い出のあるぬいぐるみや位牌が置かれている。壁には利用者皆でつくったカレンダーが飾られ、ある部屋には手作りの金色の大きなひょうたんが置かれているなど、それぞれが自分の好みの部屋に作り上げ、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がない作りで自由に移動できると共に、居室とトイレドアの色を変えて認識しやすくしている。転倒の危険なく、安全に自立生活が送れるよう努めている。		